

[特集 | 国際学会での思い出]

都市環境の研究・調査

建築・デザイン学科
 依田 浩敏

○アジアの都市環境研究

二〇〇三年一月、一般市民に対してアジアの都市環境の情報交換と保全に関する事業を行い、環境の保全、学術の進歩発展に寄与することを目的とし、『特定非営利活動法人アジア都市環境学会』が設立された。恩師である尾島俊雄先生が理事長となり、設立当初は私が事務局長を務めた。

アジアの都市環境研究者が、一堂に会して、急速な変化が進行するアジアの諸都市に関する研究成果を発表し、意見交換し、知見を得ることは極めて重要なことであることから、二〇〇四年九月に北九州で第一回を開催して以来、日本・中国・韓国で毎年

国際シンポジウムを開催している。
 ○学生の参加

二〇〇八年一月に開催された、黒部市宇奈月の温泉ホテルでの第五回シンポジウムでは、各国の大学院生も参加し、積極的な議論、和やかな雰囲気での懇親会が行われた。

翌二〇〇九年一月、第六回国際シンポジウムは中国長春市を開催都市として行われた。『Environment Energy Conservation and Carbon off in Asia City』なるメインテーマの下、低炭素社会を見据えた都市の省エネルギーについて数々の研究発表が行われ、今後のアジア諸都市の持続可能な長期発展について意見交換が行われた。

私の研究室にも久しぶりに大学院の学生が在籍したことから、三人の博士前期課程の学生、瀬川喜章君、吉開大祐君、宮田麻衣君に参加を促し、共に中国に行くことになった。彼らは、国際会議への参加、ましてや英語で発表するなど初めての体験である。論文を書くところから英語の先生に添削していただき、何度も何度も発表の練習を行い、想定問答集を作成し、無事に一五分発表の役を果たすことができた。

海外での国際会議は、もちろん論文発表が主の目的ではあるが、研究者等との

懇親・情報交換、(授業等のための情報収集である) 都市環境調査が楽しみである。中国でも、北九州市立大学の先生や学生と行動を共にし、北京国家体育場や万里の長城などにも足を伸ばした。大学院生の彼らにとって、短期間ではあったが、貴重な経験だったのでは、また、学生にそのような機会を創ることが大学教員としての役割なのではと思う。

○デビュー戦

振り返って、私の国際会議のデビュー戦は、早稲田大学の助手になった一九八九年一月、国立京都国際会議館(後の一九八七年一月に気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)開催場所)での『International Conference on Urban Climate, Planning and Buildings』であった。

当時は、現在のように便利なプレゼンテーションソフトなど無く、図表を切り貼りし、OHPシートにコピーして(カラーコピーも高価だった)臨んだ。教室のような部屋での発表と思いきや、二〇〇人以上入る大部屋(メインの部屋)! 極度の緊張! 用意した原稿の棒読み! 何を答えたか全く覚えていない質疑応答! 一五分の発表が終了後、知り合いの先生からは「はっきり、ゆっくりわかりやすかった」と言われた。それって「日本語のような英語だった」ってこと。それでも、懇親会では、論文の中でお目にかかれぬ都市気候、都市環境の大先生方とお話しができ、研究者の仲間入りをした感じがしたものだ。

○最近の海外出張

今までにヨーロッパ、北米、アジア諸国に海外出張をしたが、最近では、(当然ながら) 授業を休講することもままならず、メールでのやりとりもせねばならず、日本での喧嘩を忘れ、ゆっくり充電することができないのは至極残念である。こんな状況では良い発想など生まれるはずもなく、国際的に競争力のある研究者など育つ環境であるはずがない。



学生たちと国際会議後、万里の長城へ都市環境調査
 中国の大気汚染はこんな場所にも広がっているのか!